

2019 年度草木染塾 第 4 回

各自で持ち寄った材料で染める

2019 年 7 月 1 日(月) 黒川青少年野外センター

木綿の歴史について、前回の復習をし、植物のもつ色素について、それぞれの特徴やその色素を含有する植物などの講義を受けたのち実習に入る。

〔染材〕

岡部さん：ビワ、入江さん：ハナミズキ、田川：オニグルミ

〔染める布〕

スカーフ(シルク)、スカーフ(レーヨン)、手ぬぐい(木綿)の3種類から2つを選んで染める。

・ビワの葉を煮出す。

ミョウバン媒染でピンク色、鉄でも少し暗めのピンク色となる。

煮出してからバケツ返しをすると赤色が強くなる。時間とともに酸化して赤色がさらに強くなった。

・ハナミズキの葉と茎を煮出す。

ミョウバン媒染で黄色となる。鉄媒染では濃い黒色。

・オニグルミの葉・茎を煮出す。

ミョウバン媒染で黄土色となる。鉄媒染では薄い黒色。レーヨンとシルクは濃い黒色。

染め出された色が黄色から赤系までバリエーションに富んでいたため、レサンプ(見本)を見ながら思案。

スカーフは単色で、手ぬぐいは、各自、板締めを駆使して、個性あふれる作品ができあがった。

どこにでもある樹木が意外な色を秘めていることに、あらためて驚かされた。

(報告：田川 裕則)

